

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 北九州市立市丸小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒 803 - 0183
北九州市小倉南区大字市丸472の2

E-mail ichimaru-e@kita9.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 48名 女子 39名 合計 87名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（ ）

3. 活動内容

(1) 3年生の実践

1 目標

- 市丸地域や保護者と連携し合い、誰に対しても思いやりがあり、元気な体を持ち、自ら学び、自ら考え、支え合って値打ちのある生活を作り出していく子どもを育てる。

2 ESDの要素と重視する能力・態度

① SDの要素

<公平性>

持続可能な社会は、基本的な権利の保障や自然等からの恩恵の享受などが、地域や世代を渡って公平・公正・平等であることを基盤にしていること

<連携性>

持続可能な社会は、多様な主体が状況や相互関係などに応じて順応・調和し、互いに連携・協力することにより構築されること

<責任性>

持続可能な社会は、多様な主体が将来像に対する責任あるビジョンを持ち、それに向かって変容・変革することにより構築されること

② SDの視点に立って重視する能力・態度

【コミュニケーションを行う力】

自分の気持ちや考えを伝えるとともに、他者の気持ちや考えを尊重し、積極的にコミュニケーションを行う力

【つながりを尊重する態度】

地域の人・もの・ことと自分とのつながり・かかわりに関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする態度

【進んで参加する態度】

集団や社会における自分の発言や行動に責任を持ち、自分の役割を理解するとともに、ものごとに主体的に参加しようとする態度

3 概要（第3学年 総合的な学習の時間における実践）

- ① 単元名 「わたしたちの市丸の祭りを調べよう～もっと知りたい市丸校区の祭り～」 2
1時間

- ② 単元目標（省略）

- ③ 指導の実際（単元を通じた学習展開）

○単元設定の理由

本校の3年生は地域の祭りに積極的に参加しているが、祭りを支えている人々の思い等については知らないことも多い。事前アンケート結果からも、市丸のよさとして「自然が多い」を挙げている児童は多いが、「人」や「行事」を挙げている児童は少ない。そこで、地域の「人」や「行事」に視点を当てた教材として本単元を設定した。インタビュー活動を通して、地域の祭りのことや自分たちの生活に密接に関わっていること、祭りを支える様々な人々の思いに触れさせたいと考えた。

○<つかむ>段階「新たな教材の開発」

本校には25年続く学校行事「収穫祭」がある。これは、全校児童で作っている餅米や芋の収穫を学校や地域の方々とお祝いすることを目的としている。児童は、収穫祭のことは知っているが、「いつから」「どのような目的で」行われているかは知らない。そこで、教師が収穫祭についての疑問を投げかけると、児童は知らないことが多いことに気づき、調べたいという意欲をもつことができた。そこで、そのことに詳しい校長先生へのインタビューで疑問を解決していった。児童の顔は満足感に満ちていた。

次に、教師が「収穫祭は分かったけど、地域の祭りについて、いつから、どんな目的で始まったのか知っていますか」と、疑問を投げかけた。児童からは「いつから始まったのかは知らない」「何をお祭りしているのか分からない」等の答えが返ってきた。児童は知らないことが多いことに気づき、収穫祭を調べたように自分たちの地域の祭りのことも調べてみたいという意見が多く出された。そこで、「お祭りのひみつを調べよう」という学習課題を立てて調べていくこととした。

○くみとおす>段階

課題解決に向けて、「市丸のお祭りのひみつ発表会」というゴールを設定した。そして、収穫祭を調べた活動を想起させて、インタビューをして探りグループでまとめるという学習計画を作成した。

○くさぐる>段階

まず、地域の祭りの中でも関わりの深い四つの祭りの中から興味のあるものを選び、グループ分けをした。次に、質問項目を考える際には、収穫祭について調べた内容を想起させた。教師が提示したのを見て、「そうだった」と声を挙げる児童もいた。そして、「いつ」「どこで」「どんなことを」等の視点に沿って、スムーズに質問を考えていくことができた。課題解決をするための活動として一度経験していることが効果的だったと考える。児童は、三〜十個くらいの質問を考えていた。インタビューの前に祭りに関わっている方々に質問事項を事前に伝えて、祭りを挙げる方や関わっている方の活動の様子が伝わるように話してもらったことをお願いした。児童には、インタビュー時に初めて知ったことを確実にメモするよう指導した。



地域の方にインタビューしている様子

○くまじわる>段階「実態・目的に応じた思考のツールの活用」

インタビュー後、メモや感想の中からクラスの友達に伝えたい内容を付箋に三つ書かせた。そのことをグループで出し合いKJ法を使って内容を整理していった。各グループとも自然と額を寄せ合い、熱心に付箋を整理していた。そして、整理した内容を全体で発表し合い、自分たちの整理した内容の見直しを行った。その結果、『『地域の人たちの親切さ』を自分たちも発表しよう。』等、伝えたい内容が増えたグループもあった。グループで意見を出し合い自分たちで考えていくことができた満足感が児童の感想からもよく分かる。次時では、グループごとに伝えたい順のランキングを作り、伝えたい内容が適切かをもう一度吟味して、発表する内容を決めていった。

同じ意見はまとめよう。



KJ法を使って話し合いをしている様子

お祭りをいつやっているかを発表するとよいです。

【授業後の振り返りの記述】

- ・うまく司会ができました。まとめることができました。発表したいことが増えました。
- ・みんな協力して話し合いができてよかったです。グループで似たものがいくつあって、まとめられてよかったです。みんなしっかり自分の考えを言えたと思います。

○くまとめる>段階

まず、4年生の総合の発表を聞いたり、新道寺小の友だちと学校行事について発表し合ったりした経験を想起させた。そして、どんな発表の仕方をすると友だちに内容がうまく伝わるかをグループごとに考え、発表方法を決めていった。その後、グループごとに発表資料を作り、発表会を行った。発表後、その内容の共通点や相違点を整理する中で、祭りに関わっている人が校区にはたくさんいることに気づき、そのお祭りを受け継いでいきたいという意見も出された。

【単元終了後の振り返りの記述】

- ・僕は下澤さんと島田さんに聞くまで、お糸さんという優しい人がみんなのために亡くなったから、その感謝の気持ちをこめて祭りをしているとは知りませんでした。僕は、お糸祭りにはそんな秘密が隠されていると初めて知りました。僕は、お糸さんのためにもお糸祭りに行きたいと思います。僕は、下澤さんと島田さんに、お糸祭りのことをいっぱい、いっぱい聞きたいと思います。
- ・お祭りにたくさんの方々がかかわっているということが調べてよく分かった。他のお祭りも知りたくなった。

4 成果と課題

本校では、1・2学年は生活科、3～6学年は総合的な学習の時間を中心に、地域の人・もの・こととのかかわりを通して主体的に学ぶ児童の育成を目指している。地域の方の思いに触れたり新たな発見をしたりした時に、児童の生き生きとした姿を多く見ることができた。児童のシビックプライドの醸成に寄与する実践と自負している。今後の継続した実践を課題と捉えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）